



No.789  
2022.10.7

発行：男声合唱団 昂  
レッスン会場：  
大阪市中央区谷町7丁目1-39  
谷町第2ビル308号 ねむかホール  
連絡先：090-6058-5652(立川)

## 10/1日中友好記念碑落成盛典に出演

# 馬頭琴との協演でナーダムなどを熱唱



2022. 10. 1 日中友好記念碑落成盛典での昂の演奏（「ナーダム」・ドーンセンター）

中国の建国記念日「国慶節」にあたる10月1日（土）、真っ青な秋晴れの日でしたが、天満橋のドーンセンターで「日中友好記念碑落成盛典」が行われました。（ちなみに、看板の二段目左端の字「暨」(キ)は、「および」という意味です。)

4/23の演奏会にゲスト出演していただいた「スーホの白い馬モンゴル楽団」代表のリュウ・イさんからの依頼で、昂も出演することになりました。参加者は、団員22人と本並さん（歌手23人）。指揮坂井さん、ピアノ森さんでした。

演奏曲は、「歓びのナダム」「日々草」「昂」の3曲で、「ナーダム」はモンゴル楽団の馬頭琴奏者アルハンさんと5か月ぶりの協演でした。

音楽会は、昂も含めて全17団体・個人の出演で、中国太鼓、モンゴル舞踊、ダイ族舞踊、ウイグル舞踊など多民族の国を感じるにぎやかな舞台が繰り広げられ、楽しい一日となりました。

### 10月7日以降の活動予定（会議を除く）

- 10/7(金) 13:30 声楽中村教室  
18:00 定例レッスン
- 10/11(火) 18:00 Br. Bsパートレッスン
- 10/16(日) 定例レッスン 10/31(月) 夜に変更
- 10/20(木) 18:15 声楽千秋教室Ⅱ
- 10/21(金) 18:15 定例レッスン
- 10/30(日) 14:00 団内コンサート
- 10/31(月) 18:00 定例レッスン
- 11/1(火) 15:00 T1.2パートレッスン
- 11/3(木・祝) 18:15 声楽千秋教室Ⅰ
- 11/4(金) 13:30 声楽中村教室  
18:00 定例レッスン
- 11/6(日) 14:00 昂友の会定例練習会
- 11/8(火) 18:00 Br. Bsパートレッスン
- 11/12(土) 時間未定 かわち野医療生協50周年の  
集い（八尾プリズムホール）
- 11/17(木) 18:15 声楽千秋教室Ⅱ
- 11/18(金) 18:00 定例レッスン
- 11/20(日) 14:00 定例レッスン

## 合唱発表会の感想 (前号からの続き)

## 吉川勝彦 (Br)

## (1) 選曲の問題での感想

6分30秒の中で、今回は、選曲でのミスマッチ・「失敗」？ 昂にふさわしい曲目として、「いのちの歌」は、難しかったのではないかと？

「いのちの大切さ」をテーマにした、最もポピュラーな曲で、どの合唱団でも歌っている。しかも、この曲で「うまい合唱団だ！よく歌えている！」と聴く人に感動を与えるには、相当な歌唱力が必要ではなかったか。男声3部で、各パートが、自信を持って、リズム・メロディ・音程・言葉をしっかりと出していたか？ 昂の「いのちの歌」は、「個性的で、うまいなあ！」とまで感じてもらえたか？

「地雷ではなく花をください」は、リズムカルなテンポで、明るい声で、言葉をはっきりと、力強く歌えれば、素晴らしい曲だと思うのだが、今回はどうだったか？ 多少のフレーズの乱れがあって、何を言っているのか？ 自信を持って伝えることができないところがあったのでは？

(2) 昂は今まで、合唱発表会やコンサートで、何を大事なテーマとして歌い発表するか？を問いながらレッスンに励んできた。

①22年間の間、13回のコンサートや合発で歌った曲は、242曲！

プロテストソング、日本のうたごえで作曲された創作曲、日本の作曲家の名曲、世界の歌曲等、特に、林光・信長貴富の作品、ロシア民謡等、昂は他の合唱団にない、個性的な男声合唱曲をいくつも歌ってきている。

②これまで、推薦・受賞してきた曲目で、昂の良き特徴と私が思うのは、

- ・昂の声の質。30名以上で歌う男声合唱の重厚感を感じさせる表現力。(20数名では無理か？)

- ・昂の前指揮者・本並先生の「本並節」と言われてきた、男声合唱の曲想づくり。「縦線の合わせ」「男前な声」を出すことを口うるさく要求した「発声」へのこだわり(下手な歌い方を自ら真似て聴かせ、歌うべき歌い方を歌ってみせ、全員で歌えるまで歌わせる執念。特にオープニング曲で歌った「日々草」「春を待つ」「白樺」などのファルセットの例では、作品としてできあがっていく快感！を感じさせることがあった。)

- ・歳はとって、若々しい男声合唱団昂といわれる、昂の声質・音量・発声で、坂井先生の指導のもとでも、引き続き合唱できるようレッスンを続けていきたい。今後も、合唱発表会に出場することを目標の一つにして、選曲段階からおろそかにせず、感動を与える合唱を続けていけたらと思う。(「昂はやっぱりうまいなあ！」と言われるように)

## 山本 宏司 (T1)

何ともくやしい!!!

”大うた”合唱発表会、今回は何としても次のステップへと強く願っていただけに、いつもに増して残念です。

5月に新しい指揮者を迎えて、新たな気持ちで取り組んできたので、是非“日うた”でも歌いたかった。講評でも中村先生の感想でも、共通しているのは、

- ・出だしの言葉の処理、揃え
- ・拍子、リズム揃え、テンポ間のずれ
- ・ピッチが合っていない
- ・音が乱れ、響きが遅れる など、

日ごろから指揮者に指摘されているところです。改めて強く意識し直さないといけないと思った次第です。

私自身も“後期なんとか”を迎え、声が出にくくなっているけれど、訓練と意識で向上させることはできると信じて頑張っていきたい。

合発演奏は、合格はしなかったけど、瑞々しい演奏だったとの評価はいただきました。

年を理由に妥協することなく、指揮者の指摘をきちんとメモもして努力したい。

第10回コンサートで私がもらった感動を、たくさんの人に再び感じてもらえるように精進したいと思う。

## 吉岡 敬 (T2)

コロナ対策のためとして、不織布マスクを義務化したことは、疑問に残りました。日本のうたごえ祭典でも不織布マスクを「推奨」としていて、実際に布製マスクをして入賞した団体もありました。

また、「不織布が一番」という知見も古くなっています。うたごえ協議会としても、しっかりと新しい科学的なエビデンスを取り入れるべきだと思います。(神戸大学坪倉教授と理化学研究所の共同研究など)

昂の演奏についてですが、やはり練習不足だったと感じています。今回の曲は、本並先生の指揮でずっと歌ってきたものなので、そこから坂井さんの指導に代わり、まだ全体がそれを吸収して自分のものになっていない状態だったのではないのでしょうか。

8月の練習が中止になったことが大きく影響し、基礎的な楽譜に忠実にという点でも不十分でしたし、私たちの気持ちをこめて歌うところまで完成されないままに舞台に立ってしまったように思います。

近年の審査で感じるのは、細かな技術的なことはあったとしても、全体のバランス・まとめ、そこから現れるハーモニーを重視しているように思います。

次回は、曲の難易度の話もありましたが、易しくてもきっちり歌えることが大事(京都祭典の「朝露」のように)ですし、選曲も含めて自信をもって歌いきれるよう、よく準備をして望みたいと思います。